



<協働型学校目標・重点目標>

心にとどくあいさつを広げよう

982-0824 仙台市太白区芦の口1番1号  
Tel 022-246-0858 E-mail asibue@sendai-c.ed.jp  
HP <http://www.sendai-c.ed.jp/~asibue/>

## いじめの未然防止，早期発見のために

### 学校・保護者・地域のいじめに関する意見交換会 6.27

6月27日（水）に，学校評議員，学校評価員，PTA役員代表の皆様にご参加いただき，いじめに関する意見交換会を開催しました。

今年4月，仙台市いじめ防止条例（以下条例）が施行されました。条例には，いじめの未然防止・早期発見に向けて，学校だけでなく地域や保護者の役割についても規定されています。子供たちの人間関係には，学校での友達関係が大きく反映されることから，より一層学校と家庭・地域の連携を強めていく必要があります。

この条例の施行に伴う学校いじめ防止基本方針（以下基本方針）の改定に当たっては，学校だけでなく地域や保護者の考えも反映させることにねっています。そこで，子供の意見を反映させるために，本校では，代表委員会の議題に取り上げ，児童の考えをまとめたところです。今回の意見交換会では，子供たちの更なる関係づくりや児童の不満を小さなうちに解決するという観点から，「いじめの未然防止」「いじめの早期発見」という視点でご意見をいただきました。今後，保護者や地域の方からいただいた意見を精査し，基本方針の中に盛り込んでいきたいと考えています。

<参加くださった方からのご意見など>

- ・ 未然防止のために重要なことは「学校が開かれていること」である。「情報を共有・確認して一つの方向へ進む」ことはこれまでも言われてきたが，これを機に充実していくことが重要である。
- ・ （学校の取組は）今取り組んでいることとこれからの活動が具体的に考えられている。
  - ① 児童会による主体的な取組を促していく
  - ② ゲストティーチャーなど授業の中にも地域の方に入ってもらい
 教師にとっては，打合せの回数が増えるなど面倒な点も少なくないが，このような形で学校が開かれなければ理解を得られない。そのためには，一つでも二つでもやってみないと，地域の方に届くようにはならない。
- ・ （子供たち）一人一人に声を掛けて，「見ているよ」「知っているよ」というメッセージを送ることで，子供たちには良いことも悪いことも「見られている」「知られている」という意識を持たせることができる。
- ・ ゲストティーチャーの話を聞いて，ぜひ呼んでほしいと思った。「いのちの授業」について，学年に合わせて実施することができる。
- ・ された（被害）側はもちろん傷ついたり，嫌な思いをしたりするが，する（加害）側にもストレスがあることを忘れず，両者の話をしっかり聞くことを大事にしている。そして，情報を共有することや記録として残し伝えることが信頼関係を築くためには必要と感じている。
- ・ いつもうつむいて歩いている子がいた。声を掛けられたくないのかと思いこれまでは，声を掛けずにいたが，雨の日に傘を差していなかったので「どうした」と声を掛けた。その時は，うなずいた程度だったが，翌日から出会うと必ずにこっと笑って挨拶するようになった。小さいことだが，挨拶一つで信頼関係が生まれることもある。そのためには，地域住民がどうすれば（子供たちと）関わるができるかを考えなければならない。花壇整備やサロン活動，町内清掃など回覧を通して子供の参加も呼び掛けてはいるがなかなか参加しないのが現状だ。町内会・子供会両者の意識が希薄・形式的になっている。積極的に参加とはいかないまでも，子供会と折衝して年に何回か（地域内の）大勢が集まれることを考えたい。

- ・（これまでも学校が取り組んでいる）挨拶が一番大切だと思う。子供会と連合町内会（単独の町内会は難しい）の話合いや、連協と学校とで話合いをする場があるとよい。
- ・ 子供から元気をいただいている。助けになればという思いで小1サポーターをしている。地域の者として学校（の中）から見ていると、担任の先生方が小さいトラブルにも丁寧に対応し、子供同士の良い関係をつくっていることが分かる。全校の子供に目を向けると（芦口小は）、長年挨拶を目標にしているためか、（子供の中には）「いつもありがとうございます」と声を掛けてくる子もいる。子供と接していると、声を掛ける子が増えてきていると感じる。
- ・ 挨拶は生活の基本なので、（学校と協働して）社会福祉協議会としても地域住民に挨拶を広げていきたい。高齢者にとっても住みやすい町にするためにも、ポスターの掲示や回覧を通して呼び掛けを行い、挨拶が飛び交う町を目指したい。
- ・ 学年が上がると（学校で）嫌なことがあっても担任に話さなくなる傾向がある。ため込んでいるときに「どうしたの」と話を聞くと嫌なことでもやもやしている場合がある。（先生に）面と向かって言えなくても、様子を見てもらうよう先生に話している。親と先生がつながっていることが大事だと思う。
- ・ 子供アンケートも親子で聞き取りながらだと「それは書かなくていい」ということになってしまうので、匿名の保護者向けアンケートがあれば、学校に話していないことも吸い上げられると思う。
- ・（子供たちは）大人が見ていないところで攻撃することがある。悪いことを指摘すると、後で仲間を呼んできて嫌がらせをすることも。児童館に「ここから入るな」という張り紙をする子もいた。大人を信用していないからなのかもしれない。
- ・ 芦口小学校の児童は挨拶をする子も、返す子も多いと感じる。大人から積極的に声を掛ける、ちょっとした気付きを声にすることで大人に心を開くのではないかと思った。
- ・ いじめに関する授業をしても、いじめている側に自覚がないためになかなか直らないケースがあるように思う。身近な事例を他学年で扱うことで自身の行動を振り返ることができるのではないか。



今回いただいたご意見や子供たちのアイデアを盛り込んで、基本方針の作成に当たります。また、今年度の目標達成に向けて日々の教育活動の充実に努めてまいります。今後も、地域、保護者の皆様のご意見をお寄せください。どうぞよろしくお願い申し上げます。